

# Principal Correspondence

## ハーバード大合格者と掃除の不思議な関係

一般的に欧米では清掃を「清掃業者や使用人のやる仕事」と認識していて、自分がやるべき仕事だとは思っていません。ですから私の経験ですが、ロンドンやパリの街中など、建物は美しいけれど、歩道は吸殻やごみだらけという状況に出くわすことが多々あります。



オーストラリアからホームステイの子どもたちがリリーベールに来ると、学校に掃除の時間があるととても驚きます。でも、少しずつこの習慣は広がってきており、サウジアラビアなどでは「ニッポンから学べ」とばかり学校に掃除の時間を取り入れているところもあります。

随筆家の佐藤智恵さんの「ハーバードの日本人論（中公新書）」では、

『ハーバード大学の学生と接していると「どのような環境で育ったら、こんな風によくできた若者（成績はもちろん人柄も良い）になれるのだろうか？」と驚くことばかりである。その多くの学生は共通して「親から部屋の整理整頓・洗濯・皿洗いなど自分でやるように躾けられた。」と答える』佐藤氏は『もし、掃除はしなくていいから勉強だけやっていなさい。という家庭で育ったら自己鍛錬の機会も与られず、自制心を養うこともなかったことでしょう。』と書いています。これが規律ある生活に繋がるのです。



リリーベールでは成績は才能や生まれ持った能力だけでなく（もちろん向き不向きはありますが）、小さい頃から「自制心（ゲームとか甘いものとか、目の前の誘惑に負けない）」「興味をもってコツコツ努力する」「睡眠」などの「規律ある生活」が寄与することが大きいと考えます。それは世界共通の子どもを伸ばすルールなのかも知れません。



# Principal Correspondence

## 縦割りの遊びは社会的知性と感情的知性を育む

兄弟姉妹の少ない現代、縦割りの異年齢で子どもたちが群れ遊ぶ姿は見られなくなりました。

学校生活の休み時間も、同年齢の子どもたちと遊ぶことが通常です。

脳科学者の澤口俊之先生は『異年齢の群れ遊びこそコミュニケーション能力を高め、社会性を育て、感情的知性(他人の感情を理解し、自分の感情をコントロールする力)を育てる最も大事な機会』と述べておられます。



今はリーダーが育ちにくい時代です。

保護者の皆様は「小学校からリーダーシップ?」「そんなもの必要なの?」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし現代社会こそ「ボス」でなく「リーダー」がどんな分野にも求められています。しかし、子どもの世界は集団が希薄ですし、上の者の立ち振る舞いを見るチャンスがありません。

私はこの経験を小学校までに獲得するべきと思います。

そうしたチャンスが失われてきている現状にとって、学童保育の現場はとても大事な教育の場です。年齢の高いものが下の者を気遣い面倒をみて、年齢が低い者が年長者(リーダーシップのモデルとなる上級生)の立ち振る舞いを学ぶ。いつかはあなりたいと憧れ、一生懸命遊びについて行く。



リーダーには以下の事が求められます。

- ① チームの意思を取りまとめる力
- ② チームの目標を掲げ、全体の利益を求める力
- ③ 秩序を保つための規則遵守制(ルールを守らせる力)
- ④ フェアネスの精神で裁く力(誰にも公平・公正さで接する)
- ⑤ メンバー(特に年少の者)を優先する利他的な心

昨年、学童保育でディズニーランドに行ったときの事。

縦割りのチームリーダーが、立派に下級生をリードし、意見をまとめ、助け合いながらアトラクションを回っている姿は、引率の先生も舌を巻くほどで感動すら覚えたという事がありました。将来、宝となる役立つ経験となったことでしょう。このリーダーの子達もまた数年前はフォロワーとして上級生の立ち振る舞いを間近に見て育ってきたのです。これは座学では学べません。

秋にはまた教室を離れた体験学習活動、チーム対抗のイベントや行事を通して、学びの場面を作っていきたいと思います。

これからも育脳学童で様々な経験をして、いろいろな脳を鍛えましょう。